

新潟県内出土墨書土器の基礎的考察

小林 昌二・相沢 央

はじめに

1 統計的検討

2 文字内容の検討

おわりに

はじめに

全国各地の古代遺跡から出土する墨書土器をめぐる研究については、ともに2000年に刊行された、平川南『墨書土器の研究』、高島英之『古代出土文字資料の研究』⁽¹⁾によって、一定の到達点が示された。その後も、文献史学の側からは、三上喜孝による墨書土器の使用される場面をめぐる検討や、考古学の側からは、村木志伸、川畑誠による墨書土器の使用痕跡についての検討など⁽²⁾、より精緻な研究が重ねられてきている。一方、毎年の発掘調査によってその数を増大させている状況にあって、各県ごとの集成作業も行われている。

新潟県における墨書土器を含む出土文字資料の集成は、戸根与八郎「越後・

(1) 平川南『墨書土器の研究』(吉川弘文館、2000年)、高島英之『古代出土文字資料の研究』(東京堂出版、2000年)。両氏の研究により、官衙関連遺跡出土の墨書土器については、土器の保管・占有などを示し、集落遺跡出土のものについては、集団の標識的な文字を記し、何らかの祭祀に用いられたものとする墨書土器研究についての課題が示された。

(2) 三上喜孝「墨書土器研究の新視点—文献史学の立場から—」(『国文学』47-4、2002年)、三上喜孝「文献史学からみた墨書土器の機能と役割」(『古代官衙・集落と墨書土器—墨書土器の機能と性格をめぐる—』奈良文化財研究所、2003年)

(3) 荒木志伸「墨書土器にみえる諸痕跡について」(『お茶の水史学』43、1999年)、荒木志伸「古志田東遺跡出土の墨書土器」(『米沢市埋蔵文化財調査報告書第73集古志田東遺跡』所収、2001年)、川畑誠「素描・墨書土器の周辺」(『古代北陸と出土文字資料』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会、1998年)

佐渡の出土文字資料（上）」（『北越考古学』第6号、1993年）を嚆矢とする。経塚や木簡なども含むが、96遺跡から出土した文字資料について報告している。その後、1995年に、新潟墨書土器検討会（代表小林昌二・戸根与八郎）編『新潟県内出土の墨書土器（稿一）』が刊行され、101遺跡、1770点以上について報告している。新潟墨書土器検討会は、1995年に第1回の検討会を行い、以後2003年までに8回開催し、毎年新出の墨書土器の情報についての更新を行っている。坂井秀弥・飯坂盛泰「新潟県出土の文字資料」（『古代北陸と出土文字資料』1998年）では、約140遺跡、墨書土器約2000点、刻書文字約30点、木簡約100点、漆紙文書2点の報告がされている。それまでの墨書土器についての検討が、各遺跡の発掘調査報告書など遺跡単位で行われていたのに対して、坂井・飯坂の論考は県内出土の墨書土器の全体的傾向について扱ったはじめてのものであった。新潟県内出土の文字資料は、その後も資料数を増大させており、2003年11月現在では、墨書土器（刻書、漆書、朱書を含む）204遺跡4066点、木簡16遺跡141点、漆紙文書2遺跡4点、文字瓦6遺跡60点、銅印1遺跡1点となっており、遺跡数、出土点数ともに激増している。このような状況に鑑み、この度『新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅰ 新潟県内出土古代文字資料集成』（新潟大学「大域的文化システムの再構成に関する資料学的研究」プロジェクト、以下『集成』とする）を刊行することとなった。本稿は、『集成』に掲載された墨書土器を対象として、器種、器形、墨書部位などの基礎的事項についての統計的検討を行うとともに、記載された文字内容についての若干の考察を行うものである。

1 統計的検討

検討の対象とするものは、『集成』に掲載された墨書土器4066点の内、器種、器形、墨書部位が明確にわかるものである。刻書土器については、記載の場と時期が他の墨書土器等とは異なり、その目的と機能も異なると考えられるため検討からは除外した。合計3539点の墨書土器（漆書、朱書を含む）を対象として、以下検討を行う。

A 須恵器・土師器の割合と器種別墨書部位（全体）

合計3539点の墨書土器の内、その器種別の割合は以下のとおりである（図1）。須恵器2936点（83%）、土師器597点（17%）、施釉陶器6点（0%）。須恵器が全体の8割以上で多数を占めている。

(1) 須恵器

① 須恵器の器種

須恵器の器種別構成は、坏 A2230点（76%）、坏 B415点（14%）、坏蓋165点（6%）で、食膳具が大半を占めている（図2）。

② 須恵器の器種別墨書部位

須恵器の器種別の墨書部位は表1のとおりである。この内、坏（A、B、AB不明ともに含む）の墨書部位についてまとめたのが図3である。底部外面が2262点（83%）と多数を占めているのが特徴的である。体部外面も336点（12%）となっている。図4は、坏蓋の墨書部位についてまとめたものである。坏蓋への墨書は内面と外面がほぼ同数である（内面74点、外面77点）。その他としたものの中には、内面と外面の両方に墨書する例も含んでいる。

(2) 土師器

① 土師器の器種

土師器の器種構成についても、碗465点（78%）、坏118点（20%）であり、大半を食膳具で占める（図5）。

② 土師器の器種別墨書部位

土師器の器種別の墨書部位は表2のとおりである。このうち、碗・坏の墨書部位についてまとめたのが図6である。底部外面が199点（34%）であるのに対して、体部外面が376点（65%）であり、底部外面が8割以上の須恵器坏とは著しく異なる様相がみられる。

以上の分析は、検討の対象とした墨書土器3539点全体についてのものであり、ここでみられた傾向が、時期的にどのように変遷していくのかを確認する必要がある。

B 須恵器・土師器の割合の時期的変遷

まず、須恵器と土師器の割合の時期的変遷について検討する。時期的な変遷を考察するにあたっては次のような問題点がある。つまり、すべての資料についての時期が示されているわけではなく、時期が確認できる資料はごく限られている。また、時期が示されている場合でも、各報告書によって時期の示し方がまちまちであり、共通のものとはなっていない。そのため、3539点の墨書土器全体を対象として時期的な変遷を考察することは不可能である。そこで、ここでは次の2点にあてはまる特定の遺跡をとりあげて検討を行うこととした。一点目は、墨書土器がまとまって出土（50点以上）している遺跡。二点目は、時期を比較的短期間に限定できる遺跡。この2点を満たす遺跡として、次の3遺跡をとりあげて検討を行う。①加茂市鬼倉遺跡（墨書土器115点出土。9世紀前半～9世紀中葉）、②吉田町江添C遺跡（墨書土器313点出土。9世紀第2四半期～9世紀第3四半期）、③新発田市桑ノ口遺跡（墨書土器88点出土。9世紀末～10世紀第2四半期）。8世紀については、和島村八幡林遺跡以外には墨書土器がまとまって出土する遺跡がない。八幡林遺跡のⅠ期（8世紀第1四半～8世紀第2四半）とⅡ期（8世紀中葉）の墨書土器は58点あるが、土師器（赤彩）は3点のみで他は須恵器である。

① 加茂市鬼倉遺跡

鬼倉遺跡では115点の墨書土器が出土している。その器種構成は、須恵器杯A94点（82%）、須恵器杯B6点（5%）、須恵器杯蓋7点（6%）、土師器椀5点（4%）であり、須恵器が全体の96%を占める（図7）。墨書土器において須恵器が圧倒的多数を占めるあり方は、鬼倉遺跡で出土した食膳具全体における土師器の割合が極めて低く、1割にも満たないという食膳具の出土傾向と対応するものである。

② 吉田町江添C遺跡

江添C遺跡では313点の墨書土器が出土している。器種構成は、須恵器杯A285点（91%）、須恵器杯B13点（4%）、須恵器杯蓋11点（4%）、土師器杯4点（1%）であり、須恵器が全体の99%を占める（図8）。出土

(4) 加茂市教育委員会『鬼倉遺跡』2001年

(5) 吉田町教育委員会・山武考古学研究所『江添C遺跡』2000年

した食膳具全体の比率は、須恵器坏 A88%、須恵器坏 B 5 %、須恵器坏蓋 4 %、土師器坏 2 %、黒色土器 1 %であり、墨書土器における比率は食膳具全体の比率と対応するものといえよう。

③ 新発田市桑ノ口遺跡⁽⁶⁾

桑ノ口遺跡では88点の墨書土器が出土している。器種構成は、須恵器坏 A 1点 (1%)、土師器椀84点 (96%)、土師器有台椀 1点 (1%)、土師器内黒椀 2点 (2%) であり、土師器が全体の99%を占める (図 9)。食膳具全体については、須恵器食膳具がきわめて少ないことが報告されている。

これら 3 遺跡の検討からは、墨書土器において、9 世紀中頃から後半にかけて、須恵器を主体とするあり方から、土師器を主体とするあり方へと変化していることを読み取ることができる。しかし、この須恵器主体から土師器主体への変化は、墨書土器に限ったことではなく、9 世紀後半の在地須恵器窯の衰退・廃絶に対応して土師器の比率が高くなるという食膳具全体における器種変化と対応するものである⁽⁷⁾。つまり、墨書土器は特別な器種に選択的に墨書されるのではなく、その時期における最も一般的な器種に墨書されるといえよう。このことは、検討した各遺跡における食膳具全体の器種構成比率と墨書土器の器種構成比率が、ほぼ対応したものであることから確認できる。

C 墨書部位の時期的変遷

次に墨書部位の時期的な変遷について検討する。先に述べたように、3539 点の墨書土器全体を対象として検討することはできないため、ここでは、和鳥村八幡林遺跡で出土した墨書土器のうち須恵器坏を対象として検討を行う (図10)。

I 期 (8 世紀第 1 四半～第 2 四半) は 1 点のみであるが、底部外面に墨書

(6) 新発田市教育委員会『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』2003年

(7) 坂井秀弥「第 4 章古代第 1 節総論」(『新潟県の考古学』高志書院、1999年)、春日真実「第 4 章古代第 2 節土器編年と地域性」(『新潟県の考古学』高志書院、1999年)

されている。Ⅱ期(8世紀中葉)は、出土した34点の内、底部外面31点(91%)、底部内面1点(3%)、体部外面2点(6%)である。Ⅲ期(8世紀末～9世紀前半)は、113点の内、底部外面109点(96%)、体部外面4点(4%)である。Ⅳ期(9世紀中葉～末)は189点の内、底部外面125点(66%)、底部内面16点(8%)、体部外面47点(25%)、体部内面1点(1%)である。全期を通じて底部外面への墨書が大半であるが、Ⅳ期に体部外面への墨書が25%と割合を増している点が注目される。体部外面への墨書については、相対的に9世紀後半以降に普遍化することがすでに指摘されている。⁽⁸⁾このことは、この時期に墨書土器の主体が須恵器から土師器へと転換し、先に指摘したように、土師器の墨書部位に体部外面が多い(65%)ことと関わると考えられるが、八幡林遺跡の須恵器坏の墨書部位のように、須恵器坏の墨書部位についても一定の変化がみられる。

D 文字の種類

墨書土器に記載される文字については、その種類が限定され⁽⁹⁾、しかも複数の遺跡で共通して確認できる例が多いことが指摘されている。ここでは、新潟県内出土墨書土器の文字の種類についてみてみたい。表3は県内出土墨書土器に記載された文字の種類と出土遺跡についてまとめたものである。複数の遺跡で共通して書かれる文字については、10遺跡以上で共通する文字は、井・上・三・十・千・田・大・中・七・人の10種、5遺跡以上で共通する文字は、入・王・川・木・郡・五・工・卅・下・継・寺・天・得・長・生・井・主・廣・太・本・真・万・山・由・六・〇・×の27種である。東日本各地で共通して書かれるとされる、万・大・上・十・井・寺・生・千・田・本・得・真・下・主・天・山・継などの文字が新潟県内においても共通して書かれていることが確認できる。また、これらの文字が組み合わされて使用されることも指摘されているが、県内においても、上吉(栄町道西遺跡、栄町大

(8) 坂井秀弥・飯坂盛泰「新潟県の出土文字資料」(『古代北陸と出土文字資料』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会、1998年)

(9) 注(1)平川著書

(10) これらの文字は北陸地方の遺跡でも多く確認される文字である。

原遺跡)・上万(新津市中谷内遺跡)・善福(潟東村土手内遺跡)などの例がみられる。

2 文字内容の検討

A 人名

(1) 越後国・佐渡国の古代氏族分布

墨書土器には人名や氏族名が記載されている場合があり、残された文献資料からは明らかにできない、古代の氏族分布をうかがうことができる。ここでは木簡等も含めた出土文字資料に記載された古代の越後・佐渡の氏族分布についてみてみたい。

表4は出土文字資料によるものも含めて、これまでに確認される越後国・佐渡国の古代人名・氏族分布についてまとめたものである。出土文字資料によるものは出土遺跡の所在郡に属するものとして扱ったが、和島村八幡林遺跡出土の郡符木簡のように郡域を超えて移動している場合も当然ありうる。また、氏族名のみものについては可能性のあるものも含めている。いくつかの注目すべき氏族名について検討する。

すでに指摘されているが、古代越後国の氏族名には、北陸地方との関わりがうかがえるものがある。八幡林遺跡出土木簡にみられる「射水臣」や「能等豊万呂」など、越中国や能登国にその出自を求められる氏族名が確認される。また、下ノ西遺跡出土木簡の「道君」は、越前国加賀郡に本拠をもつ有力豪族であり、やはり北陸地方との関わりを示す氏族名である。道君(公)は佐渡国雑太郡にもその分布がみられる。『日本書紀』には淳足柵や磐舟柵の設置に伴う柵戸移配の記事がみられ、阿賀野川以北への移民が確認されるが、阿賀野川以南の地域への移民については確認できない。出土文字資料によって確認される北陸地方との関わりを示す氏族名は、文献資料には記されていないが、人々の移動・交流が確実にあったことを示している。

一方、信濃・東海地方との関係がうかがえる氏族名も確認されている。中条町船戸川崎遺跡出土の木簡と墨書土器には氏族名「守部」がみられる。守部については、美濃国にきわめて多く分布していることが指摘されてい

(11) る。また、長野県千曲市屋代遺跡群から出土した木簡に「守部」がみられることについては、東海地方から信濃への移住によるものと考えられている。⁽¹²⁾ これらの指摘からすれば、中条町船戸川崎遺跡で確認された「守部」は、美濃国から信濃国へ移配された人々が、さらに越後国沼垂郡へと移住したのと考えられるのではなからうか。新井市栗原遺跡出土墨書土器の「柴原借伎日」については、『続日本紀』における柴原と栗原の混用例から、柴原＝栗原と考えられ、栗原郷に本拠を有する郡司氏族「栗原氏」の存在が指摘されている。また、栗原遺跡出土の軒丸瓦の瓦当文の直接的な系譜が長野県千曲市雨宮廃寺の瓦に求められるように、頸城郡南辺地域と信濃北部との交流が指摘されている。⁽¹³⁾ 『続日本紀』天応元年7月癸酉条には右京人栗原勝子公の奏言がみえ、栗原勝が美濃国不破郡栗原の地に因む姓であることが記されている。頸城郡の栗原氏については、美濃国にその出自を求めることもできよう。

(2) 氏族名を欠く人名記載

人名を記載した墨書土器では、氏族名を欠き、いわゆる下の名前だけを記したものが大多数である。また、フルネーム（氏族名＋名前）を記す墨書土器が官衙関連遺跡から出土するケースが多いのに対して、名前のみを記す墨書土器は集落遺跡からも多く出土する。表5は新潟県内で出土した名前のみを記す墨書土器についてまとめたものである。赤万呂（新潟市市場遺跡、田上町保明浦遺跡）、嶋人（吉川町寺町遺跡、上越市一之口遺跡）のように、複数の遺跡で共通する名前がみられたり、飯女（笹神村腰廻遺跡3点）、乙長（新潟市市場遺跡17点）、古安人（加茂市鬼倉遺跡8点）、嶋継（吉川町寺町遺跡7点）のように一遺跡で複数出土したりすることから、これらの名前は必ずしも実在の人名ではない。集落遺跡で多く出土する意味不明の一字～数文字の墨書土器の文字については、集落に居住する集団の標識的な文字と理解されているが、これら実在しない人物の名前

(11) 柴原永遠男「守部小考—柚井遺跡出土木簡の検討—」（『大阪市立大学文学部紀要人文研究』33-12、1981年）

(12) 早川万年「壬申の乱後の信濃と東海地域」（『信濃』51-3、1999年）、早川万年「屋代木簡の人名から見た北信濃の部民制」（『信濃』53-11、2001年）

(13) 注(8)坂井・飯坂論文

も、集団の標識的な名前として記されたのではなかろうか。吉川町寺町遺跡出土の墨書土器には、「鳴継」という名前と、道教の呪符記号の九字を省略したものと考えられる記号「+」が組み合わされて書かれており、何らかの祭祀に伴って使用されたことがうかがえる。「鳴継」は祭祀の際に用いる集団の標識的な名前であろう。

B 施設名

表6は新潟県内出土の施設名を記した墨書土器についてまとめたものである。当然のことではあるが、官衙関連とされる遺跡で多く出土していることが確認できる。以下、いくつかを取り上げて検討する。

中条町蔵ノ坪遺跡の「津」と吉田町中組遺跡の「池津」は、ともに港津施設のことであろう。蔵ノ坪遺跡では「少目御館米五斗」と書かれた9世紀後半の荷札木簡が出土し、中組遺跡では9世紀中葉前後と後葉前後の京都産の緑釉陶器が複数出土しており、どちらも内水面交通に関わる遺跡と考えられる。古代越後国における内水面交通の実態を示すものといえるだろう。

「郡」は、新発田市曾根遺跡・新潟市釈迦堂遺跡・和島村八幡林遺跡・柿崎町木崎山遺跡・新井市栗原遺跡・真野町仲畑遺跡で出土している。郡に関わる施設である可能性が高いが、必ずしも郡家である必要はなく、近年各地で確認されている郡家の別院的な施設の可能性もある。柿崎町木崎山遺跡は頸城郡域の北東に位置し、「佐味」の墨書土器の出土から佐味駅に関わる施設とも考えられるが、郡家別院的な機能をも併せ持っていた可能性も考えられよう。

「厨」は、和島村八幡林遺跡・六日町長表遺跡・板倉町角田遺跡・真野町高野遺跡で出土している。高野遺跡の墨書土器は、一文字目が「国」と読めるとすれば、国府の厨家に関わる可能性があるが、詳細は不明である。厨は官衙の給食機関であり、国府や郡家を構成する施設の内のひとつである。しかし、「厨」墨書土器の出土地点が必ずしも官衙の厨施設であるわけではなく、国や郡によって催された饗饌の場における廃棄場所の可能性もある。⁽¹⁴⁾

「寺」は、中条町蔵ノ坪遺跡・笹神村発久遺跡・新潟市山木戸遺跡・新潟

(14) 注(1)平川著書

市大淵遺跡・寺泊町横滝山廃寺で確認される。「寺」という文字は、先にも触れたように、比較的多くの遺跡で共通して書かれる文字であり、「寺」墨書土器の出土のみをもって仏教施設の存在を想定することはできない。もちろん、集落内の仏堂などの仏教施設の存在は考えられるが、検出遺構や他の仏教関連遺物など、総合的な検討が必要である。新潟市大淵遺跡の墨書土器は、「隆寺」（「隆」の前で割れている）とあり、特定の寺院名を記していると考えられ、また、漆紙文書も出土していることから、仏教施設である可能性が高い。

「家」「館」「殿」に方角を冠したものがある（新潟市小丸山遺跡「西家」・和島村八幡林遺跡「北家」「南家」「南殿」・頸城村榎井 A 遺跡「北館」・上越市下新町遺跡「東家」）。これらは、複数の建物から構成される施設内において、それぞれの建物を位置関係を用いて記したものであろう。また、「田家」（新潟市市場遺跡・新津市中谷内遺跡）、「田屋」（新津市結七島遺跡）、「田殿」（和島村八幡林遺跡）や「酒居」（新潟市市場遺跡）は、農業経営や酒造（あるいは酒蔵）といった建物の機能に基づく呼称の可能性がある。

おわりに

最後に今後の課題を述べて結びとしたい。一点目は、本稿で行った新潟県内出土墨書土器の基礎的事項の検討を踏まえた上で、他県における墨書土器の傾向と比較検討することである。このことによって、古代国家の中における越後国・佐渡国の位置付け、特色をうかがうことができるのではなからうか。二点目は、越後国内・佐渡国内における地域性についての検討である。周知の通り、成立当初の越後国は阿賀野川以北の沼垂郡、磐船郡の地域であり、阿賀野川以南の四郡は大宝2年に越中国から分離併合された地域である。つまり、越後国は歴史的な性格を異にする二つの地域から構成されているのであり、政策的に区分されていた可能性⁽¹⁵⁾がある。また、国府が置かれた頸城郡は、『和名抄』に記された郷数も多く、当時における先進的地域であり、他の郡とは異なる地域的

(15) 相沢央「律令国家の蝦夷政策と古代越後国—近年の越後国木簡の検討から—」
〔歴史評論〕643、2003年）

特色を想定できる。これらの地域性を、各地域出土の墨書土器の中に見出すことはできないであろうか。今後の課題である。

(文責 はじめに～おわりに一相沢央、注一小林昌二・相沢央)

図1 須恵器と土師器の割合

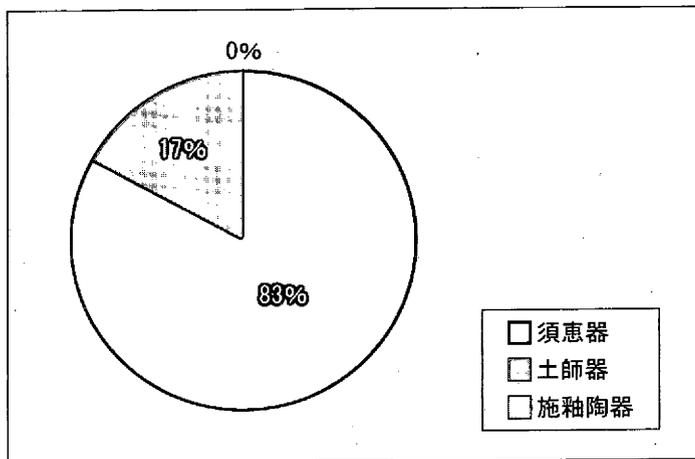


図2 須恵器の器種

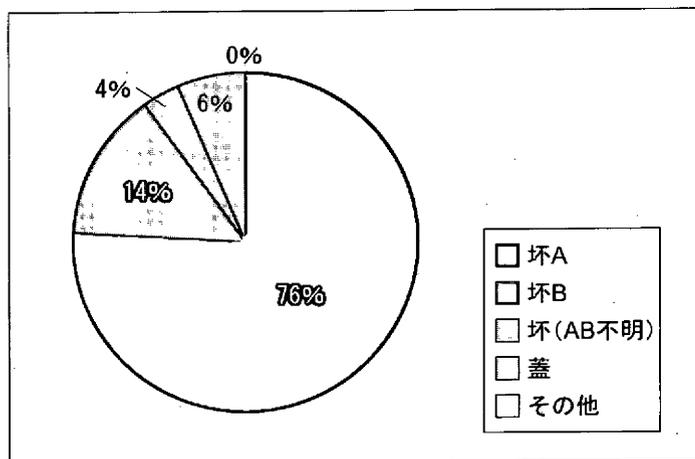


表1 須恵器の器種別墨書部位

	底部外面	底部内面	体部外面	体部内面	その他
坏 A	1886	54	235	2	53
坏 B	355	3	22	0	35
坏 (AB 不明)	21	1	79	2	0
碗	10	0	1	0	0
壺	4	0	2	0	0
盤	3	0	0	0	0
皿	0	1	1	0	0
鉢	0	0	1	0	0

図3 須恵器坏の墨書部位

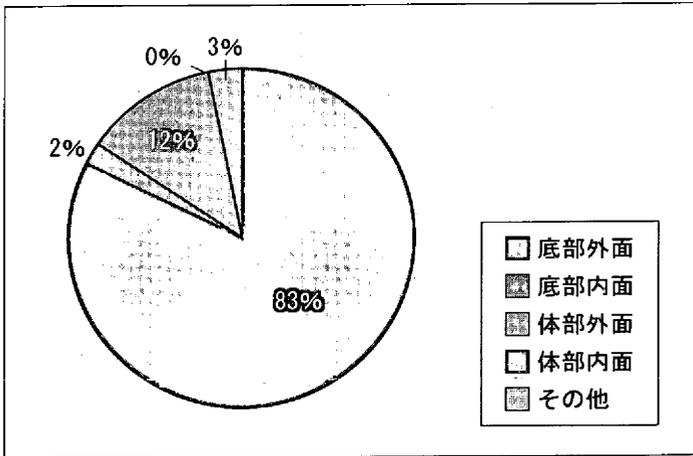


図4 須恵器坏蓋の墨書部位

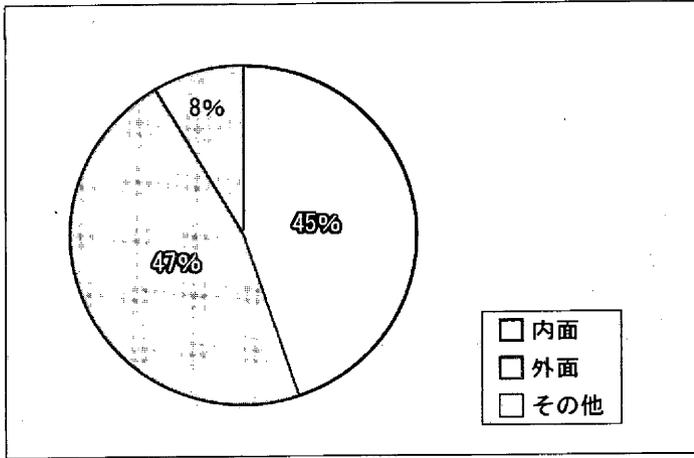


図5 土師器の器種

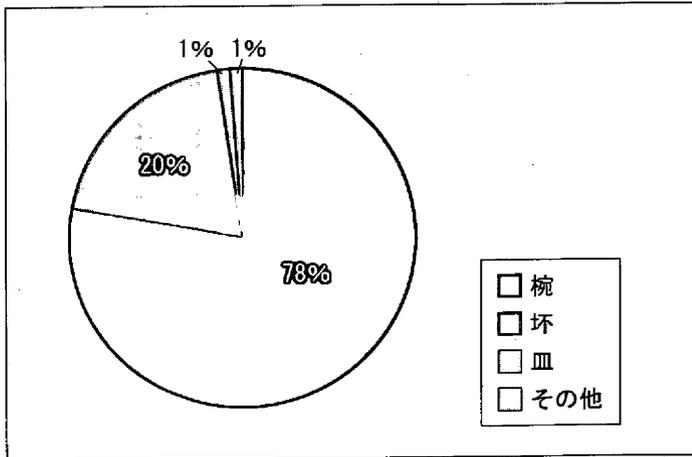


表 2 土師器の器種別墨書部位

	底部外面	底部内面	体部外面	体部内面	その他
椀	157	0	304	2	2
坏	42	1	72	0	3
高杯	0	0	1	0	0
皿	0	0	6	0	1
鉢	1	0	0	0	0
甕	0	0	4	0	0
壺	0	0	1	0	0

図 6 土師器椀・坏の墨書部位

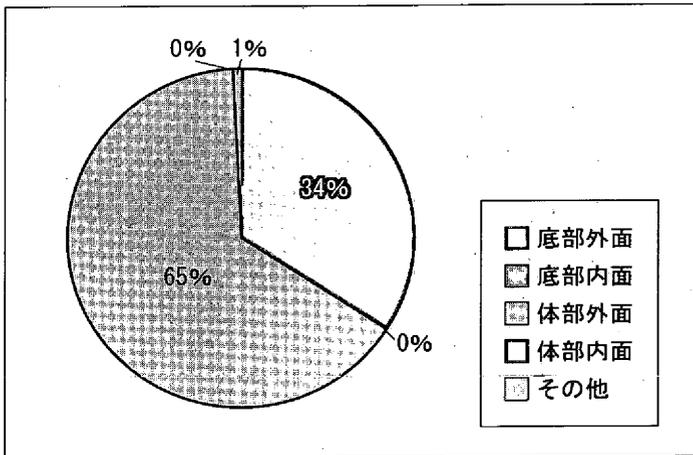


図7 鬼倉遺跡出土墨書土器の器種

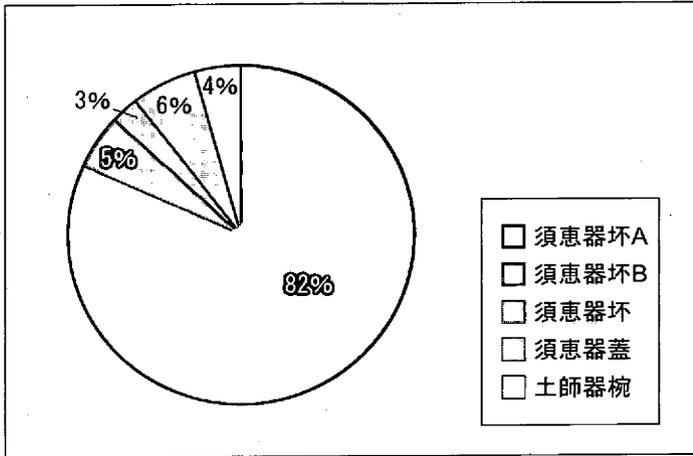


図8 江添C遺跡出土墨書土器の器種

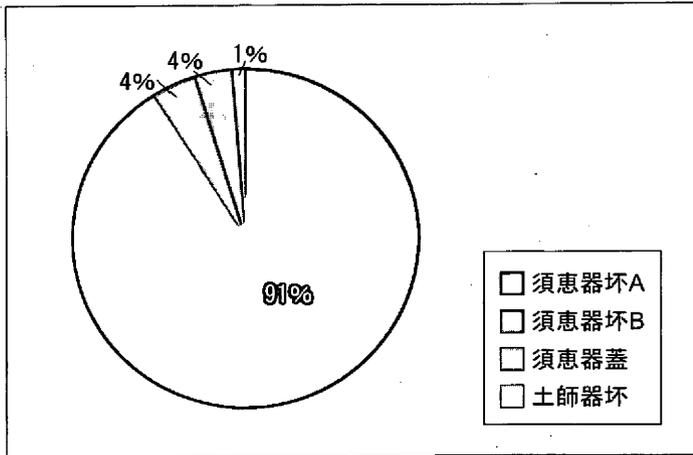


図9 桑ノ口遺跡出土墨書土器の器種

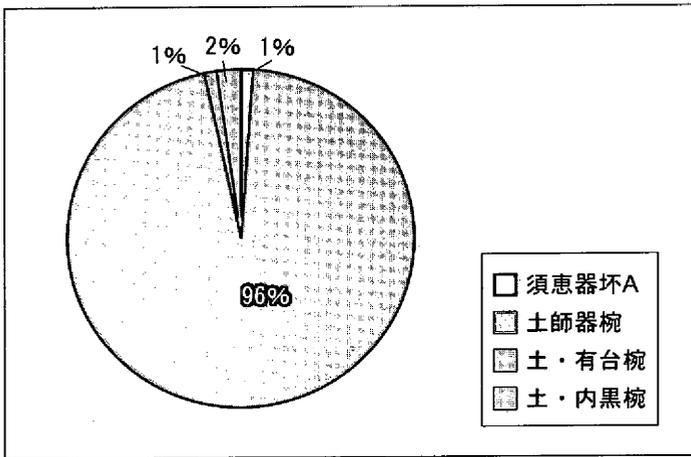
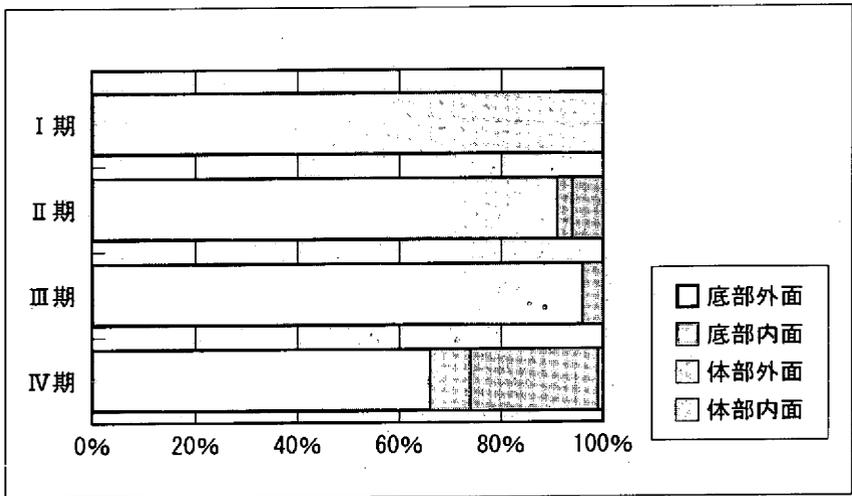


図10 墨書部位の時期的変遷 (八幡林遺跡須恵器坏)



I 期 = 8C第1四半～8C第2四半, II 期 = 8C中
 III 期 = 8C末～9C前, IV 期 = 9C中～9C末

表3 新潟県内出土墨書土器の文字種と出土遺跡名

文 字	遺 跡 名
～	1. 発久
×	1. はげ、2. 上郷、3. 坪ノ尾、4. 下ノ西、5. 等仙寺
○	1. はげ、2. 船戸川崎、3. 蔵ノ坪、4. 発久、5. 宅本杉、6. 緒立C、7. 上浦、8. 大坪I、9. 岩田
△	1. 曾根
夫	1. 腰廻
牛	1. 牛道
歪	1. 鴨侍
十	1. 曾根、2. 小丸山
三	1. 上浦B
倉	1. 保坂
存	1. 船戸川崎
伊	1. 浦梨
T	1. 中倉
V	1. 発久
赤	1. 的場、2. 越前
赤背山家	1. 上浦B
赤万呂	1. 的場、2. 保明浦
秋田万	1. 白山B
秋庭女	1. 的場
秋人	1. 馬越
朝	1. 船戸川崎、2. 曾根
麻	1. 蔵ノ坪
足	1. 曾根、2. 藤塚貝塚
足嶋	1. 八幡林
粟	1. 城山
伊	1. 鬼倉
井	1. 蔵ノ坪、2. 山三賀II、3. 発久、4. 腰廻、5. 小丸山、6. 山木戸、7. 的場、8. 緒立C、9. 川根、10. 下入湯、11. 向田、12. 枯木A、13. 弘川、14. 亀の倉、15. 宮田、16. 越前、17. 四ツ屋、18. 泉畑田
井家	1. 船戸川崎
井田	1. 石動
入	1. 曾根、2. 腰廻、3. 緒立C、4. 羽黒、5. 河原田、6. 青木宝正寺
飯女	1. 腰廻
家	1. 中谷内、2. 今池
家刀	1. 釈迦堂
家成	1. 江添C
池津	1. 中組
石	1. 的場
石井	1. 柳木田、2. 竹田沖糸里
石女	1. 腰廻
石神	1. 新保
石大	1. 八幡林
石屋	1. 八幡林
石屋木	1. 八幡林
石屋大篭	1. 八幡林
石屋殿	1. 八幡林
泉内	1. 門新
一	1. 鴨侍
一部	1. 一之口
犬	1. 釈迦堂、2. 鬼倉
稲	1. 中倉、2. 今池
稲入	1. 長表
今	1. 八幡林、2. 箕輪
宇	1. 蔵ノ坪
卯	1. 八幡林

文 字	遺 跡 名
上	1. 樋渡・堀下、2. 衣田、3. 中倉、4. 船戸桜田、5. 蔵ノ坪、6. 壱本杉、7. 山木戸、8. 釈迦堂、9. 的場、10. 大坪、11. 道下、12. 羽生田中谷内、13. 鬼倉、14. 馬越、15. 下屋敷、16. 八幡林、17. 塚田、18. 下新町、19. 一之口、20. 若宮
上吉	1. 道西、2. 大原
上殿	1. 曾根、2. 箕輪
上万	1. 中谷内
上山	1. 寺町
氏	1. 次塚
牛養	1. 本屋敷
内	1. 下新町
海立	1. 曾根
浦	1. 江添 C、2. 鬼倉
江	1. 衣田、2. 馬越
枝成	1. 本屋敷
王	1. 鶴侍、2. 中倉、3. 船戸桜田、4. 蔵ノ坪、5. 曾根、6. 上郷、7. 道下、8. 箕輪、9. 中ノ沢
岡	1. 三十刈・堂の下、2. 曾根、3. 下郷
岡方	1. 四ツ屋
岡本	1. 緒立 C
納	1. 曾根
教	1. 上浦 A、2. 上浦
悉	1. 船戸川崎
小田次	1. 的場
乙	1. 下福岡、2. 的場、3. 黒田古墳群
夫	1. 桑ノ口、2. 腰廻、3. 今池
夫山	1. 金屋
乙長	1. 的場
鬼	1. 関川谷内
臣	1. 小丸山
女	1. はげ、2. 的場、3. 金屋
禾	1. 曾根、2. 井ノ町
勝	1. 八幡林
賀	1. 富月寺墓地
衛	1. 若宮
賀甘	1. 的場
垣	1. 的場
各	1. 江添 C、2. 江添 D
笠	1. 越前
梶	1. はげ
梶万呂	1. 岩淵 A
春日	1. 津倉田
春日乙万呂	1. 岡原
門継	1. 曾根
金	1. 腰廻、2. 大瀬
神	1. 中谷内、2. 馬越
神人	1. 中谷内
川	1. 正尺、2. 腰廻、3. 壱本杉、4. 上浦 A、5. 高野
官	1. 緒立 C
渡	1. 子安
館	1. 仲畑
木	1. 船戸川崎、2. 船戸桜田、3. 山木戸、4. 江添 C、5. 大坪、6. 馬越、7. 井ノ町、8. 寺町、9. 下国府
義	1. 牛道
北	1. 八幡林
北家	1. 八幡林
北館	1. 榎井 A
吉	1. 蔵ノ坪、2. 保明浦、3. 道西
吉永	1. 中沢
吉成	1. 曾根

文 字	遺 跡 名
吉万呂	1. 的場
公	1. 曾根、2. 八幡林
公足	1. 妻ノ神
逆	1. 高畑
木山	1. 竹直神社
久	1. 下入溝
九	1. 笹山前
久女	1. 的場
京	1. 越前
行	1. 横滝山庵寺
く	1. 竹直神社
くく	1. 小丸山
草	1. 八幡林
申	1. 寺町
葛	1. 釈迦堂
口	1. 桑ノ口、2. 発久
倉	1. はげ
厨	1. 八幡林、2. 長表、3. 角田、4. 高野
黒人	1. 的場、2. 箕輪
加	1. 桑ノ口、2. 長表
軍	1. 高野
郡	1. 曾根、2. 釈迦堂、3. 八幡林、4. 木崎山、5. 栗原、6. 仲畑
郡佐	1. 八幡林
郡殿新	1. 八幡林
毛	1. 的場
毛作	1. 曾根
毛人	1. 越前
子	1. 船戸川崎、2. 岩田
五	1. 三十刈・堂の下、2. 衣田、3. 山三賀Ⅱ、4. 曾根、5. 腰廻
孝	1. 上浦 B
工	1. 正尺、2. 曾根、3. 亀の倉、4. 一之口、5. 等仙寺、6. 須沢角地 A
合	1. 牛道、2. 八幡林
古志	1. 八幡林
是	1. 馬越
是人	1. 鬼倉、2. 馬越
衣	1. 腰廻、2. 釈迦堂、3. 岩田、4. 金塚
桜井	1. 上浦 A
酒屋	1. 的場
酒人	1. 向田
里	1. 一之口、2. 仲畑
真田	1. 釈迦堂
佐味	1. 木崎山
侍	1. 蔵ノ坪
三	1. 曾根、2. 発久、3. 茗荷谷、4. 緒立 C、5. 上郷、6. 江添 C、7. 鬼倉、8. 岩田、9. 一之口、10. 後山、11. 若宮
卅	1. 腰廻、2. 的場、3. 江添 C、4. 白山 B、5. 桜井 A
史	1. 腰廻、2. 月岡
士	1. 一之口
鹿	1. 蔵ノ坪
而	1. 繩手
下	1. 船戸桜田、2. 腰廻、3. 上浦 B、4. 大坪、5. 岩田
品	1. 江添 C、2. 江添 D
柴原借伎日	1. 栗原
嶋	1. 一之口
嶋継	1. 寺町
嶋人	1. 寺町、2. 一之口
示	1. 曾根
周	1. 若宮
就	1. 大原

文 字	遺 跡 名
十	1. 高田、2. 砂山Ⅵ、3. 船戸川崎、4. 蔵ノ坪、5. 新五兵衛山、6. 曾根、7. 発久、8. 腰廻、9. 小丸山、10. 釈迦堂、11. 笹山前、12. の場、13. 緒立 C、14. 上郷、15. 上浦 B、16. 鬼倉、17. 道西、18. 片桐塚群、19. 岩田、20. 八幡林、21. 金塚、22. 金屋、23. 枯木 A、24. 箕輪、25. 宮田、26. 寺町、27. 越前、28. 本屋敷
十一	1. 船戸川崎
十二	1. 保坂
十万	1. 牛道
十厩	1. 新保
宿	1. 八幡林
舜	1. 高野
俊永	1. 笹山前
諸	1. の場
小	1. 曾根、2. の場、3. 上浦 A、4. 芋島
庄	1. 八幡林、2. 板井 A
正	1. 曾根、2. 菅原高士
丈	1. 曾根
浄	1. の場
新	1. 岩田
済	1. 曾根
銭	1. はげ
千	1. 蔵ノ坪、2. 桑ノ口、3. の場、4. 上浦 B、5. 江添 C、6. 鬼倉、7. 坪ノ尾、8. 井ノ町、9. 宮ノ本、10. 本屋敷、11. 若宮、12. 仲畑
仵	1. 等仙寺
善	1. 山木戸
全	1. の場
千繩	1. 釈迦堂
善福	1. 土手内
東	1. 釈迦堂、2. 上浦
卒	1. 八幡林
田	1. 下町・坊城、2. 新五兵衛山、3. 発久、4. 腰廻、5. 小丸山、6. 山木戸、7. 結七島、8. 茨塚、9. 江添 C、10. 下屋敷、11. 横滝山廃寺、12. 岩田、13. 八幡林、14. 宮田、15. 越前、16. 本屋敷
大	1. 中倉、2. 船戸川崎、3. 二本松東山、4. 山三賀Ⅱ、5. 坂ノ沢 C、6. 正尺、7. 曾根、8. 発久、9. 腰廻、10. 下福岡、11. 山木戸、12. 釈迦堂、13. 石動、14. の場、15. 川口甲、16. 上浦 B、17. 高畑、18. 川下 A、19. 江添 C、20. 鬼倉、21. 馬越、22. 栗師地、23. 坪ノ尾、24. 白山 B、25. 岩田、26. 八幡林、27. 塚田、28. 箕輪、29. 寺町、30. 高沢入、31. 竹直神社、32. 一之口、33. 越前、34. 上押出、35. 子安、36. 本屋敷
大川	1. 中組
大尉	1. 八幡林
大長	1. 曾根
大人	1. 北浦原 A
大神	1. 江添 C
大田	1. 馬越、2. 栗原
大野	1. 竹直神社
大家駅	1. 八幡林
太一	1. 江添 D
平	1. 上郷、2. 戸口
大領	1. 八幡林
高	1. 山木戸、2. 中谷内
互	1. 曾根
高家	1. 鬼越
宇奈	1. 白山 B
田川	1. 長表
建嶋	1. 長沼
田尻	1. 長表
他田	1. 江添 C、2. 八幡林
田殿	1. 八幡林
田中	1. 八幡林
田長	1. 八幡林

文 字	遺 跡 名
田入	1. 的場
田部	1. 岩田
田封	1. 的場
玉	1. 釈迦堂、2. 緒立 C、3. 吉田
田丸	1. 的場
為	1. 的場
田屋	1. 結七島
団	1. 高野
力	1. 桑ノ口、2. 曾根、3. 鯉口下
丁	1. 小丸山、2. 箕輪
勅	1. 箕輪
繼	1. 曾根、2. 結七島、3. 馬越、4. 大坪 I、5. 枯木 A
津	1. 藏ノ坪
月	1. 鬼倉
坏	1. 八幡林
土	1. 浜田
綱	1. 大原
寺	1. 藏ノ坪、2. 発久、3. 山木戸、4. 大淵、5. 横滝山廃寺、6. 若宮
天	1. 前田、2. 的場、3. 中谷内、4. 岩田、5. 今池
傅	1. 堅削
天九	1. 新保
戸	1. 白山 B
止	1. 腰廻
取	1. 曾根
陶	1. 来迎寺
得	1. 藏ノ坪、2. 発久、3. 向田、4. 坪ノ尾、5. 金塚、6. 今池
歳	1. 上郷
留女	1. 金屋
殿	1. 腰廻西、2. 岩田
富	1. 結七島、2. 門新、3. 八幡林
富女	1. 柳木田
島	1. 曾根
島村	1. 向田
中	1. 船戸川崎、2. 藏ノ坪、3. 山三賀 II、4. 曾根、5. 腰廻、6. 小丸山、7. 茗荷谷、8. 的場、9. 上浦、10. 八幡林、11. 今池、12. 越前
長	1. 釈迦堂、2. 的場、3. 江添 C、4. 一之口、5. 月岡
中来	1. 新五兵衛山
長入	1. 曾根
中山	1. 箕輪
七	1. 藏ノ坪、2. 赤沼、3. 曾根、4. 腰廻、5. 小丸山、6. 釈迦堂、7. 的場、8. 牛道、9. 箕輪、10. 子安、11. 裏山
生	1. 船戸川崎、2. 曾根、3. 的場、4. 岩田、5. 谷内 A、6. 鉄砲町
成	1. 腰廻、2. 的場、3. 八幡林、4. 若宮
二	1. 的場、2. 寺町、3. 木屋敷
二岐	1. 鬼倉
西	1. 釈迦堂、2. 的場、3. 茨塚、4. 一之口
西家	1. 小丸山
西水田	1. 川口甲
廿	1. 曾根、2. 発久、3. 腰廻、4. 的場、5. 上浦 B
廿一	1. 船戸川崎
二万	1. 後山
忍	1. 芋島
主	1. 山三賀 II、2. 曾根、3. 発久、4. 的場、5. 上浦 B、6. 箕輪、7. 寺町、8. 五反田
願	1. 的場
年	1. 上郷
野	1. 八幡林
野家	1. 長表
野人	1. 八幡林
伯	1. 若宮

文 字	遺 跡 名
博	1. 曾根
峯	1. 新五兵衛山、2. 一之口、3. 鬼越
葵女	1. 鬼倉
八	1. 曾根、2. 発久、3. 音無瀬、4. 箕輪
八十	1. 岡原
林	1. 曾根
原	1. 中倉
春	1. 岡原
判	1. 八幡林
日	1. 的場、2. 下ノ西
美	1. 上郷
東	1. 新五兵衛山、2. 発久、3. 岩田
東家	1. 下新町
光	1. 後山
人	1. 三十列・堂の下、2. 船戸川崎、3. 山三賀Ⅱ、4. 発久、5. 腰廻、6. 的場、7. 上郷、8. 江添C、9. 来迎寺、10. 門新、11. 戸口、12. 箕輪、13. 黒田古墳群
人倉	1. 保坂
人成	1. 曾根
百	1. 若宮
廣	1. 船戸桜田、2. 釈迦堂、3. 緒立C、4. 安代、5. 今池
廣成	1. 的場
品達部宮麻呂	1. 木崎山
福	1. 山木戸、2. 川口乙、3. 八幡林
太	1. 山木戸、2. 的場、3. 乙茂島崎川、4. 梶木、5. 本屋敷
船長	1. 江添C
古	1. 船戸桜田、2. 腰廻
古稲万	1. 山三賀Ⅱ
古曳	1. 的場
古万呂	1. 的場
古安人	1. 鬼倉
文	1. 曾根、2. 江添C、3. 白山B、4. 子安
ホ	1. 保坂
方	1. 曾根、2. 発久、3. 高畑
佛	1. 竹田沖糸里
本	1. 三十列・堂の下、2. 石動、3. 的場、4. 枯木A、5. 関川谷内
凡	1. 子安
真	1. 腰廻西、2. 釈迦堂、3. 的場、4. 中谷内、5. 馬越、6. 岡原、7. 等仙寺
枚	1. 的場
前	1. 曾根
牧人	1. 中倉
真子	1. 高田
真長	1. 的場
真成	1. 船戸川崎
真大末万呂	1. 曾根
又後	1. 笹山前
松	1. 腰廻
麻呂	1. 一之口
万	1. 曾根、2. 発久、3. 小丸山、4. 的場、5. 牛道、6. 大沢谷内、7. 一之口、8. 若宮
滴	1. 曾根
見	1. 腰廻、2. 箕輪
未	1. 曾根
右	1. 腰廻、2. 的場
水人	1. 発久
水无	1. 江添C
南	1. 八幡林、2. 弘川、3. 仲田
南殿	1. 八幡林
薩	1. 蔵ノ坪、2. 長表
薩万呂	1. 的場
耳	1. 曾根

文 字	遺 跡 名
三宅人神	1. 船戸桜田
宮所	1. 柳木田
妙越庄	1. 馬越
虫	1. 腰廻
虫万	1. 腰廻西
村	1. 船戸桜田
村園	1. 栗之江養老院
紫	1. 馬越
持	1. 的場
申	1. 川口甲、2. 鬼倉
物	1. 的場、2. 上浦 B、3. 下新町
守部	1. 船戸川崎
安	1. 越前
安万呂	1. 船戸川崎
山	1. 蔵ノ坪、2. 曾根、3. 糞久、4. 腰廻、5. 上浦 B、6. 来迎寺、7. 金屋、8. 等仙寺、9. 小出越、10. 罌口下
山直	1. 八幡林
山手	1. 中谷内
有	1. 巻本杉、2. 的場、3. 八幡林
床	1. 八幡林
弓	1. 釈迦堂
弓公	1. 長表
用	1. 曾根、2. 緒立 C
用軍	1. 長表
由	1. 桑ノ口、2. 曾根、3. 下福隅、4. 上浦 B、5. 馬越、6. 八幡林
与止	1. 釈迦堂
四	1. 笹山前、2. 岩田
龍	1. 妻ノ神
隆寺	1. 大淵
寮院	1. 仲畑
札	1. 的場
連	1. 馬越
老	1. 緒立 C
郎	1. 上郷
六	1. 腰廻、2. 大淵、3. 的場、4. 関川谷内、5. 中ノ沢
和	1. 八幡林
若	1. 野沖
譯	1. 中倉
个	1. 下屋敷、2. 竹直神社、3. 大塚
劫	1. 腰廻
槐本	1. 的場

表4 越後・佐渡の古代氏族分布

越後国	人 名	備 考	出 典
頸城郡	肥人菅麻呂	夷守郷戸主	正倉院唐布墨書、天平勝室年中
	山鹿栗栖	伊吉郷戸主	「造石山寺食物用帳」天平宝字6年2月3日
	高志公船長	頸城郡大領	「西大寺資材流記帳」宝龜11年12月25日
	物部稻吉	醫生	「三代夷録」貞觀元年12月27日
	高志公今子	節婦	「三代夷録」貞觀9年5月17日
	品達部宮麻呂		柿崎町木崎山遺跡出土墨書土器
	春日乙万呂		上越市岡原遺跡出土墨書土器
	春日		上越市津倉田遺跡出土墨書土器
	柴原僧伎日		新井市栗原遺跡出土墨書土器
	大神	式内社、大神社	〔延喜式〕
	物部	式内社、物部神社	〔延喜式〕
	磯部	式内社、水嶋磯部神社	〔延喜式〕
	青海	式内社、青海神社	〔延喜式〕
	三嶋郡	三宅史	
石木部大調			柏崎市箕輪遺跡出土木簡
小池			柏崎市箕輪遺跡出土木簡
磯部		式内社、御嶋石部神社	〔延喜式〕
物部		式内社、物部神社	〔延喜式〕
古志郡	射水臣		和島村八幡林遺跡出土木簡
	緜マ八千万呂		和島村八幡林遺跡出土木簡
	科濃入□		和島村八幡林遺跡出土木簡
	神人争万×		和島村八幡林遺跡出土木簡
	日置襄万呂		和島村八幡林遺跡出土木簡
	物マ〔 〕		和島村八幡林遺跡出土木簡
	物マ黒栖		和島村八幡林遺跡出土木簡
	物マ五百足	多岐郷戸主	和島村八幡林遺跡出土木簡
	山田□×		和島村八幡林遺跡出土木簡
	能等豊万呂		和島村八幡林遺跡出土木簡
	刑マ□□		和島村八幡林遺跡出土木簡
	山部直旗万呂		和島村八幡林遺跡出土木簡
	山マ千足		和島村下ノ西遺跡出土木簡
	山直		和島村八幡林遺跡出土墨書土器
	大宅万呂		和島村下ノ西遺跡出土木簡
	丸部臣		和島村下ノ西遺跡出土木簡
	道君□		和島村下ノ西遺跡出土木簡
	阿刀連□		和島村下ノ西遺跡出土木簡
	他田		和島村八幡林遺跡出土墨書土器
	三宅	式内社、三宅神社	〔延喜式〕
磯部	式内社、桐原石部神社	〔延喜式〕	
魚沼郡	弓公		六日町長表遺跡出土墨書土器
蒲原郡	三宅連笠雄麻呂		〔統紀〕延暦3年10月戊子
	三宅		横越町川根谷内墓所遺跡出土墨書土器
	丈部		加茂市馬越遺跡出土木簡
	丈部〔 〕	蒲原郡主帳	和島村八幡林遺跡出土木簡
	高志君大虫		和島村八幡林遺跡出土木簡
	高志君五百鶴		和島村八幡林遺跡出土木簡
	大神		吉田町江添C遺跡出土墨書土器
	神人		新津市中谷内遺跡出土墨書土器
	酒人		田上町向田遺跡出土墨書土器
	他田		吉田町江添C遺跡出土墨書土器
	建部		加茂市鬼倉遺跡出土墨書土器
	青海	式内社、青海神社	〔延喜式〕
	布施	式内社、小布施神社	〔延喜式〕
沼垂郡	大伴君稻積	淳足稻造	〔紀〕齊明4年7月甲申
	神人部宮加女		中条町中倉遺跡出土木簡
	守部五百国		中条町船戸川崎遺跡出土木簡

越後国	人 名	備 考	出 典
沼垂郡	守部		中条町船戸川崎遺跡出土墨書土器
	土師船守		中条町船戸川崎遺跡出土木簡
	麻績マ宿奈万呂		中条町船戸桜田遺跡出土木簡
	井於連		新発田市曾根遺跡出土木簡
	磯部廣人		笹神村久遠遺跡出土木簡
磐船郡	真大末万呂		新発田市曾根遺跡出土墨書土器
	財部志奈布	津波郷戸主	〔仕丁送文〕年月日欠
郡不明	財部牛甘	志奈布戸口	〔仕丁送文〕年月日欠
	伊高岐那	越蝦夷	〔紀〕天武11年4月甲申
	道信	越蝦夷沙門	〔紀〕持統3年正月壬戌
	八釣魚	越蝦夷	〔紀〕持統3年7月甲戌
	丈部得足	仕丁	〔造石山院所解案〕天平宝字6年3月13日
	三宅人領	仕丁	〔造石山院所解案〕天平宝字6年3月13日

佐渡国	人 名	備 考	出 典
羽茂郡			
雑太郡	丈部得麻呂	石田郷曾根里戸	正倉院調布墨書、天平11年11月15日
	道公宗雄	雑太団権校尉	〔三代実録〕元慶3年12月15日
	三國真人		真野町佐渡国分寺跡出土文字瓦
	物部	式内社、物部神社	〔延喜式〕
賀茂郡	矢田部足得	殖栗郷戸主	正倉院調布墨書、天応元年6月15日
	矢田部牧人	足得戸口	正倉院調布墨書、天応元年6月15日
	神人熊知雄		〔三代実録〕元慶3年12月15日
	神人道吉		〔三代実録〕元慶3年12月15日
	神人今人		〔三代実録〕元慶3年12月15日
	大田部志真刀自女		〔三代実録〕元慶3年12月15日
	服牟志子女		〔三代実録〕元慶3年12月15日
郡不明	丈部若刀自亮		〔類聚国史〕天長6年11月10日

表5 人名記載墨書土器 (名前のみ)

釈文	遺跡名	釈文	遺跡名	釈文	遺跡名
真子	神林村高田遺跡	廣成	新潟市の場遺跡	是人	加茂市馬越遺跡
牧人	中条町中倉遺跡	醜万呂	新潟市の場遺跡	秋田万	栄町白山B遺跡
安万呂	中条町船戸川崎遺跡	□久女	新潟市の場遺跡	梶万呂	栄町岩淵A遺跡
真成	中条町船戸川崎遺跡	□古女	新潟市の場遺跡	足嶋	和島村八幡林遺跡
古稲万	聖籠町山三賀二遺跡	乙長	新潟市の場遺跡	富女	十日町市柳木田遺跡
門継	新発田市曾根遺跡	真辰	新潟市の場遺跡	稲人	六日町長表遺跡
吉成	新発田市曾根遺跡	小田次	新潟市の場遺跡	留女	六日町金屋遺跡
長人	新発田市曾根遺跡	建嶋	新津市長沼遺跡	黒人	柏崎市箕輪遺跡
公足	新発田市妻ノ神遺跡	船長	吉田町江添C遺跡	嶋継	吉川町寺町遺跡
飯女	笹神村腰廻遺跡	家成	吉田町江添C遺跡	嶋人	吉川町寺町遺跡
石女	笹神村腰廻遺跡	酒人	田上町向田遺跡	仰万呂	上越市浦梨遺跡
千縄	新潟市釈迦堂遺跡	赤万呂	田上町保明浦遺跡	嶋人	上越市一ノ口遺跡
赤万呂	新潟市の場遺跡	吉安人	加茂市鬼倉遺跡	麻呂	上越市一ノ口遺跡
吉万呂	新潟市の場遺跡	葵女	加茂市鬼倉遺跡	□毛人	上越市越前遺跡
秋庭女	新潟市の場遺跡	是人	加茂市鬼倉遺跡	枝成	金井町本屋敷遺跡
黒人	新潟市の場遺跡	秋人	加茂市馬越遺跡	牛養	金井町本屋敷遺跡

表6 施設名記載の墨書土器

釈文	遺跡名	釈文	遺跡名	釈文	遺跡名
津	中条町蔵ノ坪遺跡	妙越□(庄力)	加茂市馬越遺跡	郡	柿崎町木崎山遺跡
寺	中条町蔵ノ坪遺跡	寺	寺泊町横滝山庭寺	北館	頸城村榎井A遺跡
上殿	新発田市曾根遺跡	郡	和島村八幡林遺跡	庄	頸城村榎井A遺跡
郡	新発田市曾根遺跡	郡殿新	和島村八幡林遺跡	館	頸城村榎井A遺跡
寺	笹神村発久遺跡	石屋殿	和島村八幡林遺跡	東家	上越市下新町遺跡
□□殿	笹神村腰廻西遺跡	石屋木	和島村八幡林遺跡	厨	板倉町角田遺跡
西家	新潟市小丸山遺跡	厨	和島村八幡林遺跡	郡	新井市栗原遺跡
寺	新潟市山木戸遺跡	大厨	和島村八幡林遺跡	高家	両津市鬼越遺跡
与止	新潟市釈迦堂遺跡	田殿	和島村八幡林遺跡	福松寺	真野町城ノ腰遺跡
郡	新潟市釈迦堂遺跡	北家	和島村八幡林遺跡	□(高力)命寺	真野町藤塚貝塚
隆寺	新潟市大淵遺跡	南家	和島村八幡林遺跡	□(国力)厨	真野町高野遺跡
寺□	新潟市大淵遺跡	南殿	和島村八幡林遺跡	軍	真野町高野遺跡
□(田力)家	新潟市の場遺跡	大家駅	和島村八幡林遺跡	団	真野町高野遺跡
酒屋	新潟市の場遺跡	庄	和島村八幡林遺跡	□寮院	真野町仲畑遺跡
田家	新津市中谷内遺跡	□殿	越路町岩田遺跡	□郡	真野町仲畑遺跡
田屋	新津市結七鳥遺跡	厨	六日町長表遺跡	□館	真野町仲畑遺跡
池津	吉田町中組遺跡	上殿	柏崎市箕輪遺跡		